

認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例2 幻視の訴え

研修の進め方①

まずは次の事例を読み上げます。

【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

【事例2】

Bさん、70代、女性、介護付有料老人ホーム入所。
レビー小体型認知症

半年前から介護付有料老人ホームに入所。ホームに入所する前も、自宅で「庭にたくさん人がいる」「へビが天井と壁の隙間から出てくる」などの幻視を訴えることがあった。入所後は「私の部屋を虫が這い回っている」「男の人がのぞいていて怖くていられない」などの訴えが頻繁にある。

【事例2(続き)】

ある日、突然部屋で奇声をあげ、職員が駆けつけると「そこに男の人がいる！」と訴えた。Bさんの訴えに沿った対応をしようとした職員は「本当ですね、男の人がいます。でも私がいるから大丈夫、安心してください」と諭したが、「怖い怖い、早く逃げないと！」と怯え、混乱している様子が見られた。

研修の進め方②

グループになり、BPSDの原因として考えられる項目を話し合います。出てきた項目をワークシートに記入して、グループ毎にいくつか発表します。

参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

ワーク1

Bさんの幻視の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や
心理面・身体面・環境面の影響など、
考えられること・思いついたことを
あげてみましょう

研修の進め方③

次の質問を参加者に投げかけ、ワークシートに記入してもらいます。

- ① 事例の職員の対応についてどう思うか
- ② どのような対応が適切だと思うか

ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？
問題と思う点をあげてください。

ワーク3

あなたならどう対応しますか？
適切な対応方法を考えてみましょう。

研修の進め方④

- ① 記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。人数が多い場合は数人を指名して発表してもらいます。
- ② ワークシートを回収して、全員の考え方を整理し、フィードバックして、研修は終了です。

【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。